

平成29年度 短期目標・具体的施策・成果／取組指標

分・学	短期(重点)目標	具体的方策	成果(数値)/取組(スケジュール)指標
総務部	①全教職員の共通理解のもと、学校行事を円滑かつ組織的に行う。 ②広報活動を充実させ、PTA・地域との連携を図る。	①-1 他の分掌や学年会と調整しながら、式典・避難訓練などの行事を円滑に運営する。	①相互理解による校務の円滑化を図り、活力ある学校運営が支援できたか。
		①-2 学校行事の立案計画を迅速に進めるとともに、行事の精選を進める。	
		②-1 江津高校の教育活動に理解と協力を得られるよう、PTA広報誌『星高』・『学校だより』・ホームページなどで情報を発信し、工夫・改善を進める。	②学校の様子を知らせるための情報を発信し、かつ工夫・改善することができたか。
		②-2 PTAや江星会と連携し、各種行事を円滑に進める。	
教務部	①毎日の家庭学習を習慣化する	①-1 学年会、教科会と連携して、日々の家庭学習で取り組むことのできる課題を定期発行してもらう (注)課題提出日が[特定曜日に集中しないように教科間の調整を行う。	①-1 学習時間が昨年度より上昇したか。
		①-2 学年会と連携して、学習状況を把握しやすい学習時間調査と集計を行う。	①-2 生徒の学習時間を全教員で共有できたか。
		①-3 課題テストの実施回数の増加を促す。	①-3 主要3教科において、各学期に2回程度実施できたか。
	②読書に対する興味関心を高め、多様な知識や教養を身につけようとする態度を養う。	②-1 図書館だよりを毎学期に2回発行する。	②-1 図書館だよりを毎学期2回以上発行できたか。
		②-2 生徒一人当たりの年間読書冊数を5冊以上にする。	②-2 年2回のアンケートによって調査する。
生徒部	『生徒一人一人の人権を尊重し、人間性豊かで心身ともに健やかな人間を育成する。』 [生徒指導] ①学校生活や部活動等をとおして、生徒が自発的に行動することを支援する。	①いじめ防止、服装規定の遵守において、生徒・保護者・教職員で共通の認識を持てるよう、講演会や研修会を開催する。	①-1 本校のいじめ防止基本方針の内容を教職員間で共有できたか。いじめ防止に対する態度の育成(アンケートQUといじめについてのアンケートを年複数回実施できたか。)保護者に対しては、PTA総会でお知らせが徹底できたか。
			①-2 生徒向け制服着こなしセミナーを各学年別で実施できたか。また、教職員向けに服装規定に関する研修会を実施できたか。保護者向けについては、学期に1度、お知らせ文を発行できたか。

生徒部	<p>「人権・同和教育、道徳教育」 すべての生徒の進路保障の理念柱とし、多様性を尊重しながら、人権意識・道徳意識の高揚に努める。</p> <p>②人権・同和教育 人権感覚を磨き人権意識を高めることで、自他を尊重しあらゆる偏見や差別をなくしていこうとする意欲と実践力を育てる。</p> <p>③道徳教育 集団や地域社会の一員としての使命を自覚し、自己の在り方生き方を見つめ、豊かな人間性を培う。</p>	②-1 ホームルーム活動・教科学習・部活動などあらゆる学校活動を通じて、段階的、系統的な人権教育の推進を図り、自他を互いに尊重できる集団づくりに取り組む。	②-1 人権・同和教育に関するHR活動を系統立てて各学年毎に毎学期実施する。
		②-2 校内研修の充実や校外研修の校内への還元により、生徒・教職員の人権意識を高め、よりよい人間関係の構築を図るための実践に取り組む	②-2 人権・同和教育講演会・研修会、職場の人間関係をよくする研修会等を計画的に実施する。
		③-1 様々な集団活動を通じて、社会生活のマナー・モラル・ルールを養成し、他者の思いを理解しながら、自分の在り方生き方を模索していく態度を養う。	③-1 コミュニケーション力向上トレーニング(コミトレ)の資料を毎週配布し、自他を尊重する態度を養う。
		③-2 自らの「ふるまい(礼儀、作法、挨拶、しぐさ、モラル、ルール、しつけ、道徳、倫理観生活行動、思いやり)など」を省みて、地域と連携しながら社会全体の「ふるまい推進」を図る。	③-2 道徳教育研修会を実施するとともに、ポスター掲示などとおしてふるまい推進を図る。
	<p>「保健」</p> <p>④学習環境を整え、生徒支援に配慮し、健康の大切さを意識させる。</p>	④-1 定期健康診断と保健だよりや保健講演会などとおして、健康の大切さを意識させる。	④-1 計画的に健康診断を実施し、事後結果を速やかに担任等の協力を得て通知することが出来たか。
		④-2 清掃ミーティングを行って掃除を徹底させる。安全点検を年2回実施し、その結果を速やかに事務部に連絡する。	④-2 清掃ミーティングの呼びかけをし、計画的な安全点検を実施し、その結果を事務部に連絡することが出来たか。
④-3 支援を必要としている生徒に対して、関係する教員等で連携しながら対応する。		④-3 支援を必要としている生徒に対して、関係する教員等で連携しながら対応することが出来たか。	
進路指導部	<p>重点目標 『自らの進路探究を通じ、生徒一人一人が地域課題解決に立ち向かう基を育てる』</p> <p>①進路実現のための基盤となる学力の定着・充実・向上を支援する。</p>	①-1 3年学年部と連携し、進学、就職・公務員等進路別補習を計画・実施する	①-1 年3回の補習(平日・夏期・冬期)を計画的に実施できたか。
		①-2 学年部と連携し、スタディサポートを計画的に実施することで各学年の報告会や検討会を通じ生徒の学力の定着及び向上を図る。	①-2 年2回のスタサポ・報告会を計画的に実施できたか。
	<p>②進路意識を早期に育て、自らの進路実現に向けて主体的に立ち向かう力を育てる。</p>	②-1 進路希望調査、検討会等を通じた的確な情報を生徒に提供する。	②-1 進路希望調査・検討会は計画的に実施できたか。
		②-2 オープンキャンパス・体験活動・説明会等への参加を生徒に促す。	②-2 計画的に生徒へ情報提供を行うことができたか。
	<p>③進路探究学習を通じ、広い視野を持ち、地域社会に貢献する力を育てる。</p>	③-1 自分自身を見つめつつ、進路選択に関する情報収集やその整理整頓をすることにより、自身の生き方やあり方を浮き彫りにさせ、表現させる。 ・三瓶研修での進路学習(1年) ・進路サポート(進路探究ワーク)の活用(1、2年)	③-1 三瓶研修での進路学習(進路ミュージカル)は計画的に実施されたか。・進路サポート(進路探究ワーク)は計画的に活用されたか。
		③-2 地域や社会に関する課題を設定し、実体験などを含む課題探究型学習を通して、地域や社会における自分の役割を浮き彫りにさせ、表現させる。 ・KAWARAプロジェクト(1年) ・KAWARAプロジェクトⅡ進路探究講座(2年) ・インターシップ(2年) ・進路探究発表会	③-2 インターシップは計画的に実施されたか。課題研究発表は計画的に実施されたか。

事務部	①校地内施設・設備等の点検により安全・安心な環境整備に努め、危機の未然防止に努める。	①-1 校地内施設・設備等の点検を定期的実施し、問題の早期発見に努める。	①-1 定期的に校内の巡視を行う。
		①-2 危険箇所については、問題の早期解消を図る。	①-2(1) 自然災害等の情報収集に努め、随時点検を実施する。 ①-2(2) 問題が発生した場合、危険度等優先順位を考慮し、適切に対応する。
1年学年部	「高校生としての自覚と社会生活に必要な基本的資質を身につける」 ①基本的生活習慣と学習習慣定着を図る ②コミュニケーション力の向上を図り、円滑な人間関係を構築する ③自己理解・地域理解を深め、進路選択の基盤を作る	①-1 校則や時間を守るなど、ルールやマナーを遵守させる。	①月1回学習時間調査を実施し、少なくとも学期に2回は面談を実施する。
		①-2 学習時間調査や面談を利用して、生活リズムを確認し学習習慣の定着を図る。	
		② 部活動やボランティア活動、各種体験の参加を促し、人と接する場面で思いやりのある言動を心がけさせる。 ③キャリア学習・地域連携活動を通して、将来の自己のあり方や生き方について考えさせる。	②学期ごとに活動目標・振り返りシートを作成、記入する。 ③活動の意義を進路選択と関連付けて考える場面を設定する。
2年学年部	「江津高校生として主体的・積極的に取り組む姿勢を育てる」 ①自己の課題を意識して学習に主体的に取り組ませる。 ②進路実現を意識して様々な体験に積極的に取り組ませる。 ③他者を意識したふるまいを身につけさせる。	① 学習時間調査・振り返りシート・面談等を通して、生徒に学習目的を意識させることで、取り組む姿勢を修正、向上させる。	① 調査・振り返りシート(月1回)をもとに面談(学期に3回)を実施
		②-1 部活動・総合学習・生徒会・委員会活動・LHR活動において、江津高校生としての役割を意識して取り組ませ、学校生活への誇りを持たせる。	②-1 諸活動の際、事前・事後指導を徹底する(目標の周知と振り返り)
		②-2 各種検定、看護体験や保育体験、ボランティア等の機会や進路に関する情報を提供し、生徒が積極的に取り組む意識を持たせる。	②-2 朝礼連絡や教室掲示の際に工夫する
		③-1 いつでも、どこでも、誰にでも挨拶できる姿勢を育て、身だしなみを整えさせる。	③-1 学年集会で周知、授業開始時の徹底、校内での声掛け実施。
3年学年部	「地域・社会を幸せにするための進路目標を明確にさせ、その実現に向けての努力を持続させるために、皆で協力して支援する」 ①出合いを大切に、対話を通じて、自分の進路目標を明確にし、感じて動くことの出来る生徒を育てる。 ②普段の生活において、最高学年としての自覚を持ち、目的意識を持って自発的に行動できる生徒を育てる。 ③集団生活において、多様性を受け入れながら、目的意識を共有した上で、協働することを持続できるようにさせる。	①-1 対話をした上で、進路希望調査を記入させる。LHR、面談等を通して進路実現に向けて何が必要かを自覚させる。	① 学期に2回以上の個人面談を実施し、生徒が進路目標を具体的にすることができているか。
		①-2 面談や声掛け等により、諸活動への積極的な参加を促す。また、ワークシート等を利用して諸活動で感じたことや考えたことを記録させる。	
		②-1 あいさつ(語先後礼を含む)、清掃を積極的に行い、身だしなみを整えさせる。	② 学習時間調査で目的や目標を記入させ、週1000分以上の学習時間を学年の7割が確保できたか。
		②-2 目的意識を持って積極的に授業を受けるよう促し、課題提出をさせる。	
		②-3 家庭学習時間調査を目的や目標を意識して記入させる。	
		③-1 学校生活、諸活動の中で人とのつながりを大切に、思いやりある言動を身につけさせる。	③ 計画的に人権・同和教育LHRを実施できたか。
③-2 学校生活、諸活動の中で適切な判断、行動ができるよう考えさせる。特に、部活動、学園祭、受験において、様々な人と対話を行い、目的意識を共有し、協働することを持続できるように促す。			